

「城を歩く会」3月定例会 平成31年3月19日

下総小金牧跡、佐津間城址、鎌ヶ谷郷土資料館

～鎌ヶ谷市の史跡を歩く～

特別講師＝立野 晃先生<鎌ヶ谷市郷土資料館長>

本日の主要行程

- 10時00分 ①東武野田線六実駅集合(弁当持参)
- 午前見学 ②佐津間城、③渋谷総司資料館(昼食=近くに食堂はありません)
- 午後見学 ④新鎌ヶ谷 ⑤鎌ヶ谷市郷土資料館(常設展示場、特別展=初富、小金牧開墾史)
- 16時ころ ⑥下総小金中野牧跡
- 有志見学 ⑦新京成線北初富駅解散(以降有志のみ)
- ⑧鎌ヶ谷大仏、鎌ヶ谷八幡神社(15分)
- ⑨鎌ヶ谷大仏発(約15分)新津田沼(JR津田沼まで徒歩3分)

当面のスケジュール(詳細は会報を参照ください)

- 4月定例会=17日(水曜日)地下鉄有楽町線「江戸川橋駅」10時、集合、出発
神田川・細川庭園周辺を歩く
鳩山会館(和夫、一郎、威一郎、由岐夫4代、バラとステントグラス洋館)
関口台公園(昼食)、新江戸川庭園(熊本細川藩下屋敷)、江戸川公園、関口
- 5月定例会=10日(金曜日)千葉方面現地観光バス
チバニアン、万木城、一の宮台場・オリンピック会場などを企画中
- 6月定例会=6日(木曜日)向島界限を歩く
- 8月夏期研修会=日時抽選待ち 大田区・入新井集会室(JR大森駅前)

下総小金中野牧跡(捕込・野馬土手)

江戸幕府は、軍馬を確保するため下総地方に小金牧・佐倉牧を設置しました。市域の台地上は、小金牧のうちの中野牧に属し、牧内には馬を管理する施設として「捕込」や「野馬土手」などが造られ、小金牧全体で最盛期には、1,000頭もの野馬が放し飼いにされていました。

⑥



捕込は、野馬を追い込み捕えて、軍馬として養成する馬と払い下げる馬とにより分ける、3区画からなる施設でした。

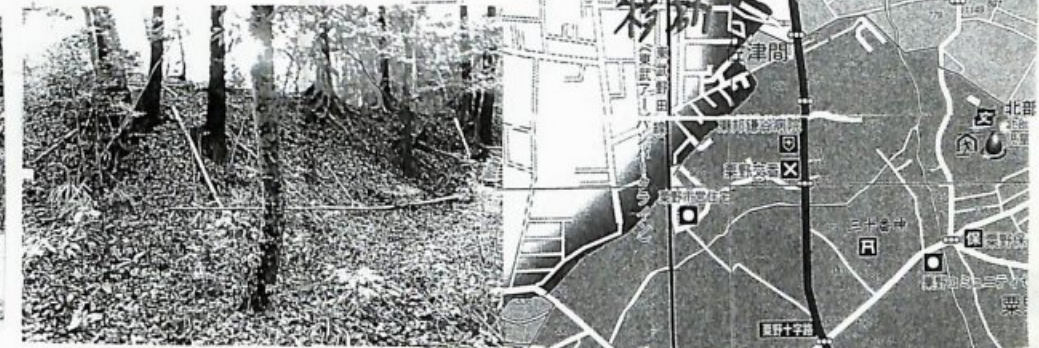
江戸幕府の軍馬生産を知る上で重要であり、小金牧の中では唯一現存する捕込として貴重であることから、平成19年2月6日に国史跡に指定されました。



①集合の六実駅



佐津間城



渋谷総司



小金牧跡(捕込)



郷土資料館



鎌ヶ谷大仏

安永5年(1776年)、鎌ヶ谷宿の大国屋(福田)文右衛門が、祖先の供養のため、江戸神田の鋳物師に铸造させたものです。銅製の釈迦如来仏で、高さは台座を除き1.8mあります。豪勢な開眼供養の様子を伝えられ、鎌ヶ谷宿の盛時の様子を今に伝える貴重な文化遺産です。(市指定文化財)



市埋蔵文化財分布地図遺跡番号11

3 佐津間城跡

中佐津間1丁目9番他

遺跡の位置 本城跡(図1)は、大津川の上流部、西から柳沢支谷、北方へ少々ずれて長谷津支谷が合流する付近の左岸台地の縁辺に所在する。台地の標高は約27m、東側に展開する水田との比高は約10mを測る。なお、東武野田線六実駅の北方約800mの距離にある。

周辺の城跡 周辺に所在する城跡を概観すると、二重川(井草川)上流の東鎌ヶ谷に接して、船橋市八木が谷5丁目長福寺境内に八木ヶ谷城跡がある。この城は、大津川流域に営まれた佐津間城とともに、河川上流部に営まれた城として共通性を有し、注目される。なお、佐津間城跡に近接する城跡としては、大津川流域の柏市高柳(旧沼南町)に所在する高柳谷中台砦跡および高柳城跡、金山落し流域の柏市藤ヶ谷の藤ヶ谷中上城跡などが知られている。なお、戦国時代の遺構をよく残す柏市の増尾城跡は、北北西約5kmの地点に存する。



図1 遺跡の位置 (1/25,000 白井)

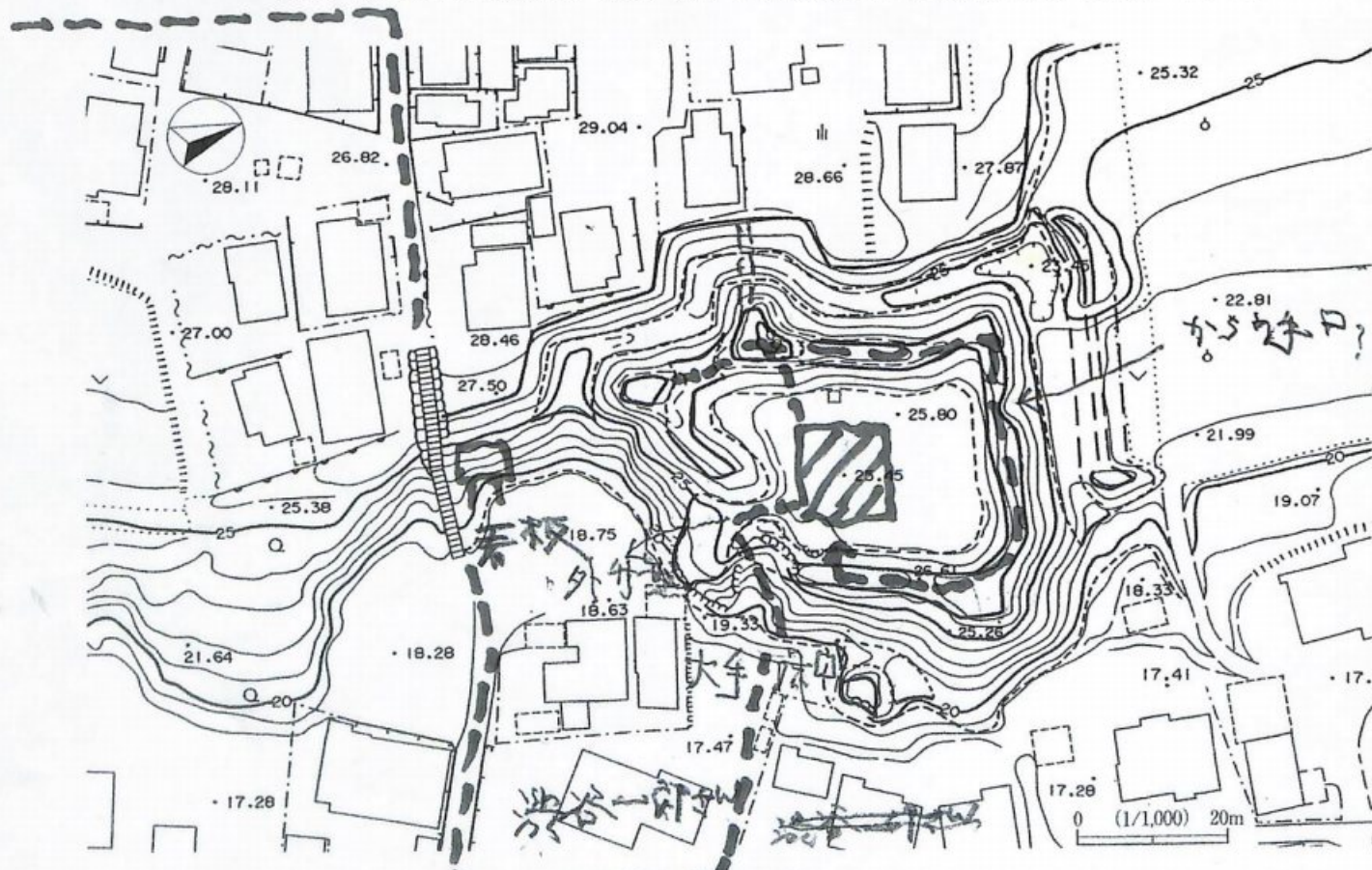


図2 地形測量図 (千葉県中近世城跡研究調査報告書 第18集より転載)

佐津間城跡の調査

遺構 PL.116-1~3

本城跡の西側は、土塁と堀をはさんで台地に連なり、東側には、大津川によって開析された沖積低地が広がっている。台地端には波状の屈曲が認められる。特に、城跡の南側には、比較的大きな彎曲がみられ、したがって、城跡は突出した台地上に営まれたような景観を呈する。なお、現状では、城跡の北側や台地端にあたる部分が人為的に削られており、原形が損われているが、ほかは旧状を保ち、遺存状態は良好である。

まず、全体のプランをみると、城跡は、単郭構造の城郭である。北から西および南に堀を入れ、東は台地端を利用し、四周を遮断する。そして、堀の内側には大規模な土塁を築いている。城跡は、堀の外側で東西50m・南北76m、土塁の内側で東西21m・南北35mをおおの測る小型の城郭である。

堀については、上幅が11~13m、下幅が4~6m、堀底までの深さは、土塁頂部から3.5~4.5m、城の外側からは3mを測る。なお、西側の堀の一部を発掘した所見によれば、5.4mで粘土層に達し、これをさらに掘り込んで、全体で6.61mを計測したという報告がなされている。堀は台地端で断たれており、縦堀の形跡は認められなかった。

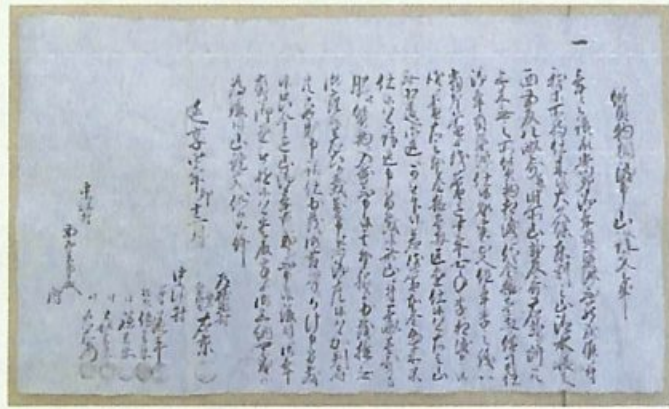
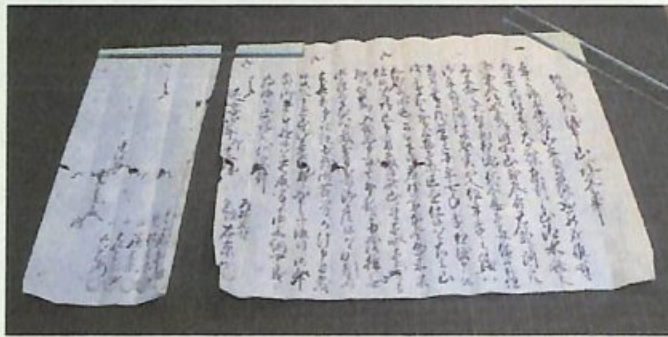
土塁については、虎口を除いて全周する。特に、西側の土塁が高く築かれている。理由は、西側から東側にかけて標高が順次下降しており、よって、西側の城外より高くするためになされた結果であり、効果的な防禦をはかるための施工と考えられる。さらに、土塁を詳細にみると、四隅と西側中央部付近の5か所の土塁頂部は、幅を広くとり、櫓台になっている。なかでも西側中央部付近の櫓台は、最も高位置にあって、西へ大きく凸状に突出している。ほかの櫓台にも張り出しが認められ、互いに連動して防禦力を高める役割をはたしていたと思われる。

虎口については、城郭の南側台地縁辺の近いところに開口する。土塁を食い違いにさせ、外側に規模の小さな平場を設け、外柵形の形態をとっている。これを大手口とすると、搦手口はどこに位置したのだろうか。明確な遺構は認められないが、北側の1か所に、土塁側面がくぼみ、頂部が若干低くなっているところがみられる。また、西側中央部付近、櫓台脇に段差があり、木橋の虎口があったのではなかろうかという2つの指摘があるが、明らかにすることは困難である。郭外になるが、東側中央部崖端に櫓台と堀切が認められる。特に、堀切は大手へのルートとしてとらえられている。

本城跡について、かつては、広大な外郭部の存在が指摘されていた。近年の調査研究では、外郭部の土塁と思われていた遺構は、近世中野牧の野馬除けの土手ではなかろうかという意見があり、検討の余地を残している。

結び 佐津間城は、村落と一体化した城郭といわれる。周辺の小字名に、北根郷屋・南木戸・屋敷裏などの地名が残っており、さらに、東側に広がる水田は、肥沃な上田や中田によって占められ、在地領主層の直営田の存在を思わせるものがある。ちなみに、佐津間城の築造年代は、16世紀中葉から後葉前半ごろといわれている。ほぼ半世紀さかのぼった時代になるが、参考資料として、城跡下の芦田氏宅では屋敷神として、文亀3(1503)年の題目板碑を祀っている。城と板碑の関係は明らかでないが、時折、城跡から五輪塔、宝篋印塔、板碑などが発見されることがある。したがって、城と板碑の関係は全く無縁ではないように考えられる。このようにとらえてみると、佐津間城は、16世紀前後のころ完成していた可能性もあり、この題目板碑の造立より15年前の長享2(1488)年11月15日、武蔵国高見原の合戦で討死した佐津間の人、伊東大和の時代に近づくことができる。(川戸 彰)

古文書の修補前(左)と修補後(右)



郷土資料館の仕事

歴史資料を後世に残す

—博物館実習と古文書修補—

資料館では毎年、学芸員資格の取得を目指す大学生を受け入れ、博物館・資料館の業務に必要な実務実習を行っています。昨年は6名の大学生が約1週間参加しました。

実習内容は博物館概論にはじまり、考古遺物や古文書の取り扱い方法、諸講座の準備・運営など多岐にわたります。そのなかの一つとして、昨年は「古文書修補」も体験してもらいました。

資料館が所蔵している古文書は、1点ずつ中性紙封筒に入れて保管してありますが、なかには保存状態があまりよくないものがあります。長い年月のなかで破れたり、紙の継目が剥がれたり、虫に喰われたりします。

修補作業では古文書をクリーニング(水洗い)したあと、古文書の状態に応じて、和紙で虫損の穴を埋めたり(虫損直し)、古文書の裏全面に和紙を貼って紙の補強をします(裏打ち)。水と、自然由来の糊のみを使い、古文書への影響は最小限にしています。

水でクリーニングをするだけでもある程度の汚れが落ち、紙のしわが伸びるので、保存にも展示にも適していると思います。

資料館の裏側ではいろいろな作業をしていますが、大事な歴史資料を後世に残すため、古文書の修補も少しずつ進めていきたい作業の一つです。

ご協力お願いします!

鎌ヶ谷の「平成」探しています

2019年4月いっぱい「平成」の世が終わり、私たちは新しい元号を迎えることになります。この約30年間にいろいろな出来事がありました。バブル経済の崩壊、消費税導入、郵政民営化、ゆとり教育の導入、そして東日本大震災…。また、鎌ヶ谷では新鎌ヶ谷駅周辺の開発や、日本ハムファイターズタウン鎌ヶ谷の開設など、市も大きく変わってきました。

郷土資料館では、平成の終わりを記念して来年度「平成の鎌ヶ谷(仮称)」の展示を行います。そこで、平成の鎌ヶ谷を切り取った写真や文書、記念品などご家庭に眠っている資料がありましたら、ぜひ郷土資料館までご一報ください。ご協力お待ちしております。



新鎌ヶ谷駅周辺航空写真
(平成16年撮影)

鎌ヶ谷市 郷土資料館 だより 第46号

目次

- 第21回ミニ展示……………1・2
- 歴史講演会Ⅱ……………2
- 第17回収蔵資料展示……………3
- 郷土資料館この一品⑤……………3
- 郷土資料館の仕事・鎌ヶ谷の「平成」探しています……………4



この地に生きる人々の暮らしや想い、時の移ろいを見守ってきた「初富稲荷神社」

◇◇ 第21回ミニ展示 ◇◇◇◇◇◇◇◇

地区の歴史と文化財⑦ -初富- 〈後期〉

～初富の歴史と民俗を伝える文化財：初富開墾150周年記念～

市内7地区の歴史と現在まで伝わった文化財を紹介するこのシリーズは、市域の中央部に位置する初富地区で最終回となります。昨年7月から9月にかけて埋蔵文化財を展示し好評をいただいた〈前期〉に続き、今回の〈後期〉ミニ展示では、今からちょうど150年前に誕生した初富の近・現代史を記した歴史文化財と生活や信仰を伝える民俗文化財、そして昔の初富地区の写真を現物とパネルで展示します。開墾地初富の人々が残した貴重な文化財の数々をぜひご覧ください。

明治・大正・昭和の歴史語る 数々の文化財を展示

後期の展示では、初富の歴史と民俗を知ることができる文化財の数々を展示します。主な展

示内容は次のとおりです。

- ① 初富の近・現代史を語る歴史資料
「初富」の地名が初めて記された「開墾地移住民埋葬につき願書」(明治2年)をはじめ
(2ページへ続く)

鎌ヶ谷市郷土資料館だより 第46号 平成31年2月15日発行 編集・発行：鎌ヶ谷市郷土資料館
 住所：〒273-0124 鎌ヶ谷市中央1-8-31 Tel：047-445-1030 Fax：047-443-4502
 メール：kyodo@city.kamagaya.chiba.jp
 ウェブサイト：http://www2.city.kamagaya.chiba.jp/sisetsu/kyoudo_2/index.html

〈1ページからの続き〉

として、主に明治時代に作成された古文書類を中心に展示します。

② 伝承された民俗文化財

近年までくぬぎ山地区で行われていた「野馬観音講」など、明治から昭和にかけての時代に初富で盛んであったいろいろな講で使用された掛け軸や講の道具・文書を展示します。

③ 昔の初富フォトグラフ

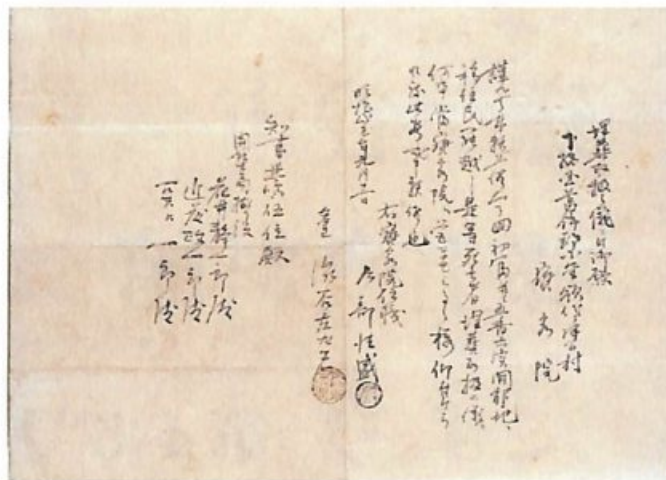
主として、昭和期に撮影された初富の景観や行事の写真をパネル展示します。

3月16日から展示スタート

今年で開闢してから150年を迎える開墾地初富。小金中野牧から美しい畑地へ、そして住宅地へと変貌をとげる中、現在まで伝わった貴重な文化財をご覧になりながら、歴史へ想いを馳せていただけたら幸いです。

会期 3月16日(土)～5月26日(日)。ただし、毎週月曜日と3/21(木)、4/30(火)～5/5(日)は休館

開館時間 午前9時～午後5時



「初富」の地名が初めて記された明治2年の古文書類
会場 郷土資料館2階展示室
入館料 無料

ギャラリートークも開催

展示期間中の3月23日(土)、4月10日(水)、4月21日(日)、5月7日(火)、5月17日(金)のいずれも午後1時30分～2時30分に、担当学芸員によるギャラリートーク(展示解説)を行います。申し込みは不要ですので、お気軽にご参加ください。

お問い合わせは、郷土資料館 ☎ 445-1030 (FAX: 443-4502) へどうぞ。



第17回収蔵資料展示

日清・日露戦争と鎌ヶ谷

郷土資料館では、2月26日(火)から「第17回収蔵資料展示」を1階展示室で行います。

明治27年(1894)から起きた日清戦争は近代日本にとって、はじめての本格的な対外戦争でした。日清戦争では約18万人が戦争に駆り出され、日清戦争出征兵士墓誌1万人以上が亡くなっています。鎌ヶ谷の日清戦争に関する記録はあまり残されていませんが、初富の共同墓地に今もひっそりと建つ墓誌によって、戦死者の名前が確認できます。

また日露戦争は、明治37年(1904)に満州・韓国をめぐる日本とロシアの間でおきた戦争です。この戦争に関連した史料は市内にも残っており、市内から出兵し戦死してしまった若者



郷土資料館この一品⑤

たてあな 竪穴住居

郷土資料館に入ってまず目を引くのは、中央に展示している「竪穴住居」の復元模型でしょう。

鎌ヶ谷市域では、縄文時代終末から弥生時代の遺跡は発見されていません。これは、環境の変化や稲作の伝播に伴って、市域が生活に適さない土地であったためと考えられています。

古墳時代になると、一本松遺跡や猿根No.1・No.2遺跡などの集落が形成されます。人びとは、甕・壺・高坏などの様々な形をした土師器と呼ばれる土器を作りました。また、甕の登場によって、米を「蒸す」調理スタイルが生まれます。

やがて古墳時代の後半には、竪穴住居内に

の記録まで残されています。

今回の展示では明治期におきた二つの大戦、日清・日露戦争が鎌ヶ谷にもたらした影響を見ていきます。

中沢地区でひと足早い春を探そう

—春の自然観察会を開催—

春は名の中沢八幡・春日神社境内や根郷川沿いを散策しながら鳥や植物を観察し、早春の自然とふれあってみませんか。

日時 3月2日(土) 午前9時30分～正午。荒天の場合は3日(日)に順延

集合場所 中沢自治会館(なるべく徒歩・自転車か公共交通をご利用ください)

定員 30人(申込先着順)

参加費 50円(保険代)

講師 唐沢孝一さん(都市鳥研究会顧問)

服装 歩きやすい服装・靴で

申し込み 郷土資料館 ☎ 445-1030

FAX: 443-4502



竪穴住居の復元模型

竈が誕生し、生活空間も劇的に変化します。さらに、土師器とは異なるロクロを使って作られた硬質な須恵器も用いられるようになります。

奈良時代になると市川市には下総国の国府が置かれ、律令国家として着実にその歩を進めていきます。市域でも、大堀込遺跡や根郷貝塚などで当時の竪穴住居跡が見つかっています。庶民にとっては、まだまだ竪穴住居が一般的な住まいであったことが分かります。

歴史講演会II

初富の始まり -下総台地の東京窮民-

市内の明治時代の歴史の幕開けとして行われた初富開墾は、近代日本の各地で行われた開墾の中でも最も早いものの一つです。そし



開墾により誕生した「初富」

て、本年は開墾が開始されてからちょうど150周年にあたります。

この講演会では、開墾事業が開始された時の状況、その主役となった「東京窮民」とよばれた人たちの人生や生活、事業終了後の請願や裁判を始め授産地回復闘争などを、明治政府の政策とからめて語っていただきます。

日時 3月17日(日)午後2時～4時

会場 中央公民館集会室(きらり鎌ヶ谷市民会館内)

講師 天下井恵さん(元鎌ヶ谷市史編さん事業団近・現代部会長)

定員 70人(申込先着順)

参加費 無料

申し込み 郷土資料館 ☎ 445・1030へ